

海外渡航時の豆知識： ツベルクリン反応について

ツベルクリン反応（以下、ツ反）は、結核菌に対する細胞性免疫能感作の有無を見るテストです。わが国では乳児にツ反を行い、陰性者に対して（すなわち結核菌感染既往が無いと考えられる乳児に対して）BCGを接種しています。日本では大多数の乳児はBCG接種を受け、接種後はBCGに感作され、通常ツ反は陽性化します。

一方、例えば米国がそうですがBCGを定期接種として実施していない国もあります。そのような国では、ツ反は結核菌感染の有無を調べるための検査としての意義を持ちます。乳児期、小児期にBCGは接種していないので、ツ反陽性は結核菌感染を意味します。

日本の子どもたちが米国などに渡航した場合、ツ反の判定結果についてしばしば誤解が生じることがあります。結核菌感染者と診断され、抗結核剤を投与される場合さえあります。外国の医師たちが十分に日本の予防接種体制を理解してないケースは多いのです。

当院のような英文診断書を持参させれば、日本からの渡航者たちは誤解されることなく円滑に海外での生活を送れるのではないのでしょうか？